（1）　昭和30年12月5日 第3種郵便物認可　（日曜・祝日の翌日休刊）　社団法人日本地方新聞協会加盟　（日刊）　第18279号

岳陽新聞

7月12日　水曜日
2017年（平成29年）

発行所 岳陽新聞社
〒418-0002 富士宮市中原町7番地
☎（0544）24-9050　FAX（0544）24-9007
購読料1か月630円　1部売り50円

誠意と高い技術力
土木、建築、舗装、各戸上下水道工事　設計施工
株式会社 三与（みつよ）建設
本社　富士宮市田中町1150
電話　27-0770（代表）

詩集を寄贈した清さん夫妻と麟太郎くん

「もしもし、じいじのおうちにいるけどママのこと忘れないよ」
自主出版詩集『りんくんのうた』市教委に寄贈
きらめく言葉、祖母が詩集に

国指定で治療法がないといわれる難病「色素性乾皮症（XP）」を患う富士市在住の清麟太郎さん（13）と富士宮市西山在住の祖父母の清利男さん（78）と文子さん（76）は10日、自主出版の第2弾詩集『りんくんのうた』36冊を市教委に寄贈した。

3兄弟の真ん中で、就学前は元気に走り回り、普通の子と同じ生活をしていた麟太郎さん（以下りんくん）は、難病XPと診断されて生活が一変した。

XPは皮膚が乾燥し、皮膚がんが普通の人の数千倍多く生じる病気で、日本での患者数は人口2万2千人に1人の割合だと言われる。症状は、6歳で運動機能のピークとなり、意思疎通は十分と言われるが、学童期前半から聴覚機能や言語能力の低下が進むといわれ、「20歳までには歩けなくなると言われている（文子さん）」という。

現在、完全に根治する治療法はないと言われているが、りんくんは学校に通い、いじめにあいながらもその純粋な世界観を表す感性で、大人には想像もつかないような想像力豊かな発想やあらゆる生への優しい眼差しを感じさせる言葉を語り、文子さんが「この子の耳が聞こえるうちに、元気なうちに」と書き留めてきた。

今年3月に300冊を出版し、新聞などで取り上げられ反響は大きく、多くの手紙が文子さんに送られてきた。

文子さんは増刷に踏切り、既に1000冊を出版、6月には富士市教委に50冊を寄贈している。

冊子はA5サイズ全55ページで、挿絵は文子さんの妹さんが担当し、りんくんの透明感あふれる優しさが伝わる作品に仕上がっている。

同日、りんくんとともに池谷貞徳教育長に本を寄贈した利男さんと文子さんは「優しく育ったりんくんの言葉を多くの人に読んでいただき、多くの人に伝わって手紙などをいただきました。厚かましいかと思いましたが、一人でも多くの人に読んでほしいと思い、学校に寄贈することを決めました。私たち家族も病と闘うりんくんとともに頑張ってまいります」と語り、池谷教育長は「りんくんの言葉をまとめたおばあちゃんの気持ちを大切に、学校の道徳授業で活用させて下さい」と謝意を述べた。

8月5日には、BS・TBS（BS6チャンネル）午前10時から11時まで、りんくんの5歳時から14歳時までを追ったドキュメンタリー「サンディードキュメント おひさま家族」の再放送が行われる予定だ。

土産を手に嬉しそうな川勝知事

「30歳までは失敗していい。能力を活かせ」
川勝知事が富士宮高校会議所を訪問

先月、静岡県知事選挙で3期目の当選を決めた川勝平太静岡県知事が10日、西町レトロ館で富士宮高校会議所（中村真緒会頭）を訪問した。

同会議所は先月の静岡知事選挙で、候補者2人に高校生としてのアンケートを実施。県政への今後の取り組みは抱負などを引き出すなどの意気込みや、活動に関心を持った川勝知事が同日、富士宮市内に来宮したこともあり、四本元県議会議員の案内で会議所メンバーたちとの交流が実現した。

同会議所は市内5高校の高校生が地域ビジネスを学び、高校生の視点で地方創生やマネジメントを学ぶなどの活動が評価され、関東商工会議所連合会「ベストアクション賞」や富士宮観光協会「それみやげにして宮名物コンペ　奨励賞」を受賞する等注目を浴び、全国にもじわじわと活動が広がっている。

会議所には約10人のメンバーや関係者、市職員、地元関係者など約30人が集まり、川勝知事の自己紹介から同会議所の活動紹介、知事選候補者へのアンケート結果について意見交換が行われた。

高校生発案の商品紹介では『富士の4歳の酒まんじゅう』やおばあちゃんの味で人気の『箱すし』などを土産に渡し、「お母さんでなくおばあちゃんというのがいいね」「4酒蔵の味を活かした、富士宮ならではの土産だね」と賞賛の言葉を贈った。

記念撮影後、川勝知事は「30歳までは失敗していい。独り立ちしなくていい。（失敗したって）また違う人生が始まるのだから。断絶だってありますと高校生たちに語りかけ、「高校の勉強をまずしっかりやることは大切だが、それが全てではない。街のため、仲間たちとそれぞれの能力を活かしてこの場所をベースに、大学や地域やボランティアの人たちを巻き込みながら、みんなを喜ばせる物を作れば、対価払ってくれる」と高校生たちの視線に応え、よく通る声で勇気づけた。

メンバー一人ひとりと会話を交わし

●来春中学校卒業見込み者対象●
学校説明会
8月5日（土）
10:00から12:00まで
学校法人 富士宮学園
富士宮高等専修学校
高校卒業資格取得!
申込は中学校を通じていただくか、直接本校に連絡して申し込むことも可能です。（電話・FAX・HPより）
総合情報科 男女60名募集
●静岡県知事認可校
●大学入学資格付与指定校
●高等学校等就学支援金対象校
●勉強が苦手・不登校でも入学可能
無料スクールバス運行中!
お申し込み・お問い合わせ
受付/平日 9:00~17:00
☎0544-26-3472
●PCサイト 富士宮高等専修学校
〒418-0065 富士宮市中央町14番7号
富士宮駅 北口より徒歩2分
学校法人 富士宮学園
富士宮高等専修学校

九州地方大雨災害被災者支援の義援金受付
日本赤十字社

日本赤十字社は、7月に九州地方で発生した大雨災害で被災された方々を支援するため、7日から8月31日まで義援金の受け付けを開始した。

これに合わせ、富士宮市も市役所1階福祉企画課で8月31日まで大雨災害義援金を受付けている。

この義援金は日本赤十字社静岡県支部を通じて全額が被災県に設置される義援金配分委員会に託される。

風おろし

『ヒグラシを聴く』

◆まだ梅雨明け前なのに、連日の猛暑で、夏の空に沸き立つ雲を目にしました。日暮れにカナカナカナと鳴く蜩（ひぐらし）の鳴き声も耳にしました。10日に『お山開き』を迎えた富士山にも夏の雲が浮かぶ姿が見られます。梅雨明けともなれば、まもなく入道雲が沸き上がり、油蝉がうるさく鳴く季節を迎えます。

◆入道雲は、地表近くの空気が日射で熱せられて激しい上昇気流となって生まれます。高さは10キロメートル前後で、15キロメートルにもなるものがあります。

発達した入道雲の上部では水の粒子が凍ることがあり、白く輝くような入道雲が氷の粒からできている発達した入道雲の上部では水の粒子が凍ることがあり、白く輝くような入道雲が氷の粒からできているものもあります。

「雲の峰」とは気象学では積乱雲のことで関東などでは坂道太郎、京都などでは丹波太郎などと親しみを込めた呼び方もあります。

中国の詩人陶淵明の詩『四時』に、「春水四沢に満ち　夏雲奇峰多し　秋暉を揚げ　冬嶺孤松秀づ」とあります。入道雲を「雲の峰」と例えたのは古代中国の詩人が最初で、陶淵明の「夏雲奇峰多し」には、「大いなる自然への畏敬と賛美」が込められています。

与謝蕪村の句には「雲の峰　四沢の水の　涸れてより」があります。松尾芭蕉は「雲の峰　いくつ崩れて月の山」と、『おくのほそみち』の旅で月山に上り頂上の小屋に泊まった元禄2年6月6日（旧暦。西暦では1689年7月22日）の夜に詠んでいます。

日が暮れて、月山の頂上から炎天にそびえていた雲の峰が崩れ果てていく様を目にしたのでしょうか。月山にはほのかに月の光が照らし始めてきた様子と芭蕉の情景が浮かんできます。雲の峰は「夏」の季語で、小林一茶も「蟻の道　雲の峰よりつづきけん」と詠んでいます。

◆梅雨明け前であるのに厳しい夏の熱さが続く連日の猛暑に「梅雨明け」宣言はまだなのかの声も聞かれますが、蜩が鳴き始めています。

『源氏物語』には、光源氏が登場する場面に蜩が陰りを帯びた光源氏の心の投影を描くように綴られています。「ひぐらしの、はなやかに鳴くに…」「ひぐらしの声、はなやかなるに…」…、後段には亡くなった紫の上を庭の撫芝を眺めながら思い出す場面に蜩が鳴き声を響かせている様子を綴っています。

薄明りが好きな蜩は、太陽が雲に覆われて薄暗くなると鳴き出すことがあり、森閑に響く美しい響きは、小説や詩歌・俳句など文学世界には数多く登場する蝉の一種です。

蜩は透明な羽を持つ体長4㌢にも満たない蝉で薄明りを好み、空洞になった腹部が共鳴室の役目を果たし、もの哀しげなよく通った声を出します。歳時記では、「初秋」に分類されていますが、実際は梅雨明けの頃から鳴き始めています。鳴くのは、主に日暮れや明け方ですが、樹木が鬱蒼と茂った深い森など薄暗い場所では、真昼でも鳴き声を響かせています。

日中の晴天に雲の峰を目にした夕暮れ、日差しが消えた林の中から蜩の鳴き声を耳にしました。